

週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月18日(火)

《「できる」か「できない」か》

質問をさせていただきます。皆様は、「できない」とよく言うタイプですか。それとも「できる」とよく言うタイプですか。どちらでしょうか。「できない」とよく言うタイプだと思っ方は手をあげてみてください。では逆に、頼まれたら「できます」と答えるタイプだと思っ方は手をあげてみてください。中には、「できることにはできると言い、できないことにはできないと言うタイプだ。」と思っていらっしやる方もいるかもしれません。しかし多くの人間は、この二つのタイプのどちらかになります。「できない。できない。」と言うのが癖になっている人もいるし、実際には何にもできないのに、いつも「できる。できる。」と言って迷惑をかける人もいます。

この二つのタイプには一長一短があり、どちらか一方だけに偏っってしまうのは、よいこととは言えません。たとえば、いつも「できない。できない。」と言う人は、ある意味では謙遜な人に見えるかもしれません。そして、「できない」と思って行動をしないのだから、失敗することもほとんどないでしょう。しかし、発展もありません。成熟する機会を自ら捨てるしてしまうのです。逆に、「できる。できる。」という人はどうでしょうか。失敗ばかりしてしまいます。しかし、発展はします。試行錯誤を重ねながら、自分なりに何とか答えを得られます。

さあ、もう一回質問をします。皆様は、「できない。できない。」とよく言うタイプか、「できる。できる。」とよく言うタイプか、どちらでしょうか。どちらの方が望ましいと思われるでしょうか。「できる」と言うほうが望ましいのでしょうか。「できない」と言うほうが望ましいのでしょうか。もちろん、個人の能力にも差があり、できない人もいるし、できる人もいます。しかし、全ての人にできることが一つだけあるのです。今日私が言いたかったのは、その話です。

“全ての人にできること”とは、何でしょうか。それは、神様のみ心を体験することです。頭のよい人も、そうではない人も、体が丈夫な人も、丈夫でない人も、みんな望む心があれば、神様のみ心をはっきり体験できます。その体験ができれば、どういう時に「できる」と言うべきか、どういう時に「できない」と言うべきかが、はっきり分かります。神様のみ心が分らないから、自分の弱さで、ある時は「できる」と言い、ある時には「できない」と言うのです。この二つの反応は、大体どちらも、私たちの弱さから来る反応なのです。

もちろん、どちらの反応にもよい意味があります。「できません」と言う時には、謙遜でへりくだる心になります。逆に「できます」と言う時には、積極性を持ちます。しかし、「できます」と言う時に何よりも必要なのは、積極性よりも、できるように神様の力を求めようとする心です。皆様が何かをなさる時に、神様が一緒にいてくださればそれはできます。しかし自分勝手に、自分の高慢さで、「できる」と思っってしまったら、これは必ず失敗します。私たちは、そういう判断をくたさなければなら

ないのです。

ある新聞記事の話です。21年間盗みを続け、22年目に捕まったどろぼうがいました。その人はどろぼうとしての腕前が優れていて、警察は予想をしていますが捕まえることができませんでした。そのような特別な能力を持っていたのです。その人が捕まった時に、警察の人々はみんな驚いたそうです。誰が見ても信頼できる人に見え、盗みなどする人には見えなかったからです。一人の警察官が「誰が見てもあなたは盗みなどしそうに見えません。あなたの持っている能力、才能を使えば、どんな仕事でもできたと思うのに、なぜ盗みなどしたのですか。」と訊ねました。するとその人は、「私は盗みしかできないのです。」と答えました。

この話から私たちが考えなければならないことは、“人間は、勝手に自分の限界を決めてしまう癖がある”ということです。そしてその限界の枠に自分を閉じ込め、「私はこの枠の中しか動けない」と思いこみ、どんな可能性に対しても心を閉ざしてしまうのです。

しかしもう一度申し上げます。「神様、共にいてください。これが正しいことならば、できると信じます」という願いがあれば、私たちは何とか乗り越えることができるのです。皆様できますか？信者ならば「できます」と答えるものです。できますか？ できますね。個人の能力は、全ていつか年をとってしまいます。しかし心の働きは、望みがあれば何でもできるのです。そのようにイエス様に願いましょう。

今日イエス様が、「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」(ヨハネ 17・1-11a)とおっしゃいましたね。つまり、「私たちがあなたのみ心を押し量れるように導いてください。」と祈りながら願えば、それは必ずかなえられる、ということです。できます！

ありがとうございました。